

# 元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare  
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 吉本 理恵



サマースクールでの一番の不安としては、外国語のコミュニケーションが挙げられる。特に、私は中国語の授業を受けていなかったため、非常に不安であった。しかし、一日目に中国語の授業が設けられており、配られたプリントを見ながら中国語の自己紹介を学ぶといったもので、安心して受けることができた。また、この授業で私たちFグループをサポートしてくれる台湾学生と交流することができた

台湾では二つの病院訪問をした。

最初に訪問した病院では、普段入ることができない PACS などの情報処理に関わる機械室を見学した。機械の温度調整のため、冷房は 20 度近くに設定されており、非常に寒く感じた。また、「機械の神様」という概念が台湾にはあり、お菓子をお供えしていたことが、日本とは異なった面白い文化だと感じた。

次に訪問した病院では、健康促進のためのフィットネスクラブを併設していた。これは、病気を治療するだけでなく、病気を予防することにも重点を置いた最新の施設ということである。このような施設の存在は台湾に来て初めて知ったが、帰国して調べてみると、日本にも幾つか存在することに驚いた。



日本を紹介する交流会では、私たちの学校が在る京都と日本の正月の遊びを紹介した。簡単な日本語と英語を用いて、それに中国語の翻訳も加わった発表により、台湾の学生にもわかりやすいよう工夫した。

また、台湾と日本の違いをお芝居などを交えて楽しく発表した。私たちは日本のお正月を担当し、羽根つきや福笑いを実演した。日本人と言えども、羽根つきや福笑いは数回ばかり体験したことがあるだけで、ルールなどは曖昧になっていた。日本の伝統的な遊びが徐々に廃れていっていることを改めて感じた。

また、外国人に日本の文化を紹介するにあたり、日本人自身がそれを熟知していないと、文化を伝えることはできないことを再確認した。

これは一日目の昼食の写真である。最初に用意されていた三皿に加え、計十皿近い料理が出された。台湾では沢山の料理を出すと喜ばれるため、初日は豪勢な料理でもてなしを受けた。日本料理と近い味付けの料理や、日本にはない果物など様々で、とても美味しくいただいた。中には、豚を丸々使った料理などもあって驚いた。



二日目からはバイキング形式だったが、スイカと龍眼と呼ばれる果物がデザートであることは変わらなかった。龍眼は中に黒い大きな種が入っており、味はライチに似ていた。最初は少し苦手だったものの、食べていくうちに美味しく感じられた。



台湾では太極拳の授業があり、私たちもそれを体験することができた。太極拳は朝公園などで健康促進のために行う人が多く、日本でいうラジオ体操に似たものだと感じた。ただ、ラジオ体操と異なる点は、しっかりとすると大変筋肉が疲労することである。現に、翌日筋肉痛になる人は多かった。

また、太極拳はカンフー映画に取り上げられることが多く、今回習った太極拳の型を実際に映画の中でも見たことがあるものもあった。映画のワンシーンを思い浮かべながら太極拳をやると、楽しむことができると思う。

こちらの写真は九份での写真である。日本人にとっては、宮崎駿監督の映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなった場所でもおなじみで、夕暮れになり灯りが灯ると非常に趣深く感じられる。残念ながら、この有名な階段を通り過ぎてしまったが、沢山の様々なお店が立ち並び、雰囲気だけでも十分味わえた。

また、日本の林檎飴に似た食べ物が売っていたが、これは水飴をラップに包んだものだった。ラップに小さな穴をあけ、そこから水飴を吸い出すというのだが、少しテクニックが必要だった。



最終日の JAPAN DAY では、私たちは日本で人気のある歌でのダンスを披露した。台湾に出発する前に、振付やダンスを完成させていたが、他の発表と同じ歌だったため、急遽変更となった。練習時間は少なく、ホテルに戻ってからの時間に限られたが、一部はダンス、二部はバルーンアートをメインして精一杯努力できたと思う。ダンスの他にも、日本のお好み焼きやそうめんなどの料理や、日本を紹介するスライド発表もあり、非常に楽しめた。

一週間という短い期間であったが、台湾の学生と交流できる濃い時間を過ごせた。また、反省点なども多くあり、自分自身を成長させることができる良い経験になったと思う。